

令和7年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑（1ページ以内に収まるよう作成）

団体名	わってらか		
団体の属性	☐セルフヘルプグループ・当事者等		☑ボランティアグループ等
	☐市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	☑一般助成	☐協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	親子・子どもと地域の人が出会える「まちの居場所づくり」における親子・子どもの「居場所事業」		
事業の目的	歴史など魅力多い小田原市は移住者が急増し、親子の居場所や新旧住民の関わりの不足が地域課題である。わってらかでは育児の孤立をなくし、子育てと暮らしを安心して楽しくするために、親子・子どもと地域の人が出会える「まちの居場所」を2024年度より運営。		
事業概要	<p>① おやこひろば：産後孤立しやすい未就園の親子を対象に11回開催。元幼稚園教諭の協力で、自由なあそびと読み聞かせやシアターを行い、交流や子育てや生活の情報交換の場とした。</p> <p>② こどもあそび：こども主体で自由に過ごせる場として放課後・長期休みに32回開催。駄菓子&amp;ボードゲームの日も11回開催。多い時で30名以上参加。子どもと大人の関わり合いの場となった。</p> <p>③ 居場所勉強会：5/1にNPOとしまち研(東京都)関氏、7/17にかもすた(小田原市)中津川・石塚氏をゲストに開催。7/17は行政、地域団体も参加し、居場所について学び話し合った。</p> <p>④ 居場所リーフレット：三つ折りのリーフレットを作成・印刷。小田原市の小学校、幼稚園・保育園、産婦人科、近隣店舗、行政や社協等の関係機関、自治会等に広く配布した。</p>		
成果や課題	<p>・地域に知り合いがない・引っ越してきたばかりの親子、学校に行きづらい子ども、発達等育児の悩みを抱える親、多世代の地域の方が来訪。スタッフがつなぎ手として丁寧に何度も関わり、この場に慣れ親しみ、子どもと大人のつながりが育まれた。(対象事業参加者数：累計812名、居場所全体の来訪者数：平均193名/月)</p> <p>・居場所事例勉強会を通じて地域団体、行政と、居場所の意義を共有し必要な支援を協議できた。</p> <p>・スタッフ(10名)や多世代のボランティアの体制を拡充し、あそびの開催回数を増やした。更にスタッフを募集し、見守り体制をつくるのが課題である。(2026年4月NPO法人化予定)</p> <p>・リーフレットで、取り組みの主旨や内容を広く周知できた。引き続き周知にも力を入れていく。</p>		
今後の展望	<p>・居場所を通じて孤立しがちな親子がつながり、地域での暮らしの安心感を創出する。</p> <p>・子どもが学校や家庭外で自分らしく過ごせる第3の居場所とする。地域で子どもと大人の豊かな関わり合いと経験を育む。多世代で子育てを見守って子どもを育てる地域の風土をつくる。</p> <p>・居場所が認知されて来訪者が増え、団体全体として、カフェ、手づくり品などの販売委託料、場所貸しなど複数の事業で経費も生み出し、長く地域に根付く居場所となるよう取り組む。</p> <p>・子育て世帯が新たな担い手となり、小田原のまちの更なる魅力づくりへとつなげる。</p>		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>まちの居場所でのこどもあそびの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>居場所トーク(勉強会)2025.7開催</p> </div> </div>		